

令和8年

3 / 20

金祝

6 / 7

日

9時～16時30分

休館日 月曜日

(5月4日(祝)は開館)、
3月24日(火)、4月30日(木)、
5月7日(木)、5月8日(金)、
5月12日(火)、5月13日(水)

入館
無料

さいたま市立博物館第37回企画展

近世さいたまの道

— 村をつなぐ生活の道・信仰の道 —



上:武州足立郡丸ヶ崎村色絵図覚(当館蔵)

下:道しるべのある分かれ道(現春岡小学校付近、1980年代撮影)

さいたま市立博物館第37回企画展

近世さいたまの道

—村をつなぐ生活の道・信仰の道—

入館無料

令和8年

3/20 ▶ 6/7

休館日

月曜日(5月4日(祝)は開館)、
3月24日(火)、4月30日(木)、
5月7日(木)、5月8日(金)、
5月12日(火)、5月13日(水)

江戸時代のさいたま市域には、中山道と日光御成道という、参勤交代の大名なども通行する主要な街道が通っていたほかに、あちこちの城下町や宿場町、市場町、村々、寺社、陣屋などを結んだ道がありました。これらの道は、行き先の地名を取って「○○道」と呼ばれることが多く、住んでいる人たちの生活に使われたのはもちろん、他にも役人の巡回や商品の流通、寺社への参詣など、様々な目的に利用されていました。分かれ道などには、道行く人々のために多くの道標が建てられ、一部は現在でもその姿を見ることができます。

今回の展示では、さいたま市内の江戸時代の主な道筋について、どのような目的で利用されていたのかという点に注目して紹介します。中には、皆さんがいつも通っている道もあるかもしれません。かつて多くの人々が行きかた道筋やその面影を、ぜひ見つけてみてください。



桜区西堀の三菩薩像道標
(文化4年(1807))



日光御成道(右)と原市道(左)の分かれ道(見沼区東宮下)



三室村絵図(個人蔵・浦和博物館寄託)

学芸員による展示解説

開催日/3月20日(金・祝)・4月19日(日)・5月30日(土)

時刻/各日とも11時～・14時～ 所要時間/各40分程度

費用/無料 申込/不要

企画展関連イベント

定員/各35名 費用/無料 会場/当館1階講座室

①講座「大山信仰と道標」

講師/元さいたま市文化財保護課長 野尻 靖 氏

日時/3月29日(日)14時～16時 申込メ切/3月19日(木)

②講座「赤山陣屋の成立と近世の赤山道」

講師/川口市役所職員 出野 雄也 氏

日時/4月26日(日)14時～16時 申込メ切/4月13日(月)

申込方法

さいたま市生涯学習情報システムにてお申込みください。

※パソコン・スマートフォンからのお申込みが難しい場合は
メ切日までにご相談ください。

※利用には利用者登録が必要です。

生涯学習情報システム <https://gakushu.city.saitama.jp/>



さいたま市立博物館

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2-1-2
TEL 048-644-2322 FAX 048-644-2313



さいたま市立博物館ウェブサイト
<https://www.city.saitama.lg.jp/004/005/004/005/008/index.html>



さいたま市の博物館X(旧Twitter)
<https://x.com/SaitamaMuseum>

※このちらしは6,000枚作成し、一枚当たりのコストは24円です。